

【出品リスト】

語り継ぐココロとコトバ

大古事記展

五感で味わう、愛と創造の物語

平成26年10月18日(土)～12月14日(日)

場 所 奈良県立美術館 (奈良市登大路町 10-6)

休館日 10月20日(日)、11月17日(日)、25日(火)、12月1日(日)、8日(日)

開館時間 午前9時～午後5時 (金・土曜日は午後7時まで)

*入館は閉館の30分前まで

主 催 奈良県、朝日新聞社
共 催 NHK奈良放送局、奈良テレビ放送株
協 賛 シャープ株
後 援 西日本旅客鉄道株、近畿日本鉄道株、阪神電気鉄道株、奈良交通株、
株南都銀行、奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合、
歴史街道推進協議会
企画協力 (株)平凡社、(株)ワコールアートセンター
企画制作 (株)アサツー ディ・ケイ

今から1300年余り前、奈良の都で完成した『古事記』。

ここには、国の成り立ちから始まる多くの神話やさまざまな出来事などが美しい文章と歌謡で記されています。

この展覧会では、『古事記』を題材にした絵画はもちろん、古社に伝わる宝物、多彩な考古・文献資料、アーティストによる新作など、バラエティ豊かな展示物により、『古事記』の豊かさを心ゆくまで味わっていただきます。

いつの時代も、その時代を生きる人々にさまざまなインスピレーションを与えながら語り継がれてきた『古事記』。

今改めてその「ココロとコトバ」を読み解き、未来をよりよく生きるヒントを、みなさまと一緒に探してみたいと思います。

※ リストの順番は展示順と異なります。

・ 指定記号 ● 国宝 ○ 重要文化財 □ 都道府県指定文化財 ■ 市町村指定文化財

・ 会期中、展示替えを行います。 ■ 部分が展示期間を示します。

前期は10月18日～11月16日、後期は11月18日～12月14日、その他の展示期間は記載のとおりです。



1 太安萬侶神坐像

序章

『古事記』を編纂したとされる太安万侶。後世に胸を張って伝えられる書物にしたいという熱い思いをもって、編纂作業に取り組み、完成させたのではないのでしょうか。まずは、この思いを受け止めるとともに、『古事記』に登場する神々に思いをはせることから、『古事記』の世界への旅を始めることにしましょう。

番号	名称	作者(生年―没年) / 出土地	数量	形式 / 材質	時代	所蔵	展示期間	
							前期	後期
1	太安萬侶神坐像		1 軀	木造彩色	室町時代	多坐彌志理都比古神社		
2	伝伊耶那岐命坐像		1 軀	木造彩色	平安時代	丹生川上神社		
3	伝伊耶那美命坐像		1 軀	木造彩色	平安時代	丹生川上神社		
4	女神坐像		1 軀	木造彩色	平安時代	丹生川上神社		
5	◎ 伝落別命坐像		1 軀	木造彩色	平安時代	小槻大社		
6	◎ 伝大己貴命坐像		1 軀	木造彩色	平安時代	小槻大社		



11 天の岩戸 曙光

第I章

古代の人々が紡いだ物語

『古事記』は、神々が生まれ、世界を創る場面から始まります。やがて、神話は人々の物語へとつながっていき、全3巻にわたり、さまざまなエピソードがいっきいきと語られているのです。たとえば、非情ささえ感じる戦いがあつたかと思えば、胸ときめくロマンス、親子の情愛にほろりとするシーンも……と実にバラエティに富んでいるのが魅力です。そのうちのいくつかは時代を超えて多くの人々をひきつけ、絵画や演劇、芸能などのモチーフにもなっていました。

第I章では、そんな『古事記』の名場面を、「創」「旅」「愛」という3つのキーワードで厳選します。個性あふれる神々や人物ごとに、すばらしい美術作品とともに紹介しましょう。

26	八岐大蛇退治図	鈴木松年 (1848-1918)	1幅	紙本墨画着色	明治4年 (1871)	京都府立総合資料館 (京都府京都文化博物館管理)		
25	組上絵 八岐大蛇退治	歌川豊久 (生没年不詳)	1枚	大判錦絵	江戸時代 (19世紀)	兵庫県立歴史博物館 (入江コルクシヨウ)		
24	八岐大蛇図	高倉在孝 (生没年不詳)	1幅	絹本着色	江戸時代 (19世紀)	名古屋博物館		
23	天照大神と須佐之男命	松本楓湖 (1840-1923)	1幅	絹本着色	明治41年 (1908)	広島県立美術館		
22	弥生土器	武蔵大崎 (東京都池田山北遺跡) 出土	1点	久が原式土器 / 粘土・砂	弥生時代後期 (2世紀)	東京大学総合研究博物館		
21	縄文土器	青森県亀ヶ岡遺跡出土	1点	大洞式土器 / 粘土・砂	縄文時代晩期 (紀元前8世紀)	東京大学総合研究博物館		
20	大久米命	前田青邨 (1885-1977)	1幅	絹本着色	明治40年 (1907)	岐阜県美術館	10月18日〜30日	
19	神武天皇像	土佐光武 (1844-1916)	1幅	絹本着色	明治23年 (1890)	京都府立総合資料館 (京都府京都文化博物館管理)		
18	神武帝図	河鍋曉斎 (1831-1889)	1幅	絹本着色	明治年間 (19世紀)	名古屋博物館		
17	天孫降臨 I	絹谷幸二 (1943-)	1面	カンヴァス・顔料	平成24年 (2012)	個人		
16	天之八衢	安田鞞彦 (1884-1978)	1幅	紙本着色	昭和14年 (1939)	福井県立美術館		
15	誕生 (3) 須佐男命の追放 (4) 天孫降臨 (5) 海幸山幸	河鍋曉斎 (1831-1889)	5面	紙本着色	明治11年 (1878)	山口静一氏	(1)(2)(3)	(4)(5)
14	少彦名神図	浮田一蕙 (1795-1859)	1幅	紙本墨画淡彩	江戸時代 (19世紀)	名古屋博物館		
13	少彦名神図	菊池容斎 (1788-1878)	1幅	絹本着色	江戸時代末頃 (19世紀)	名古屋博物館		
12	肇國創業絵巻 上巻	絵 横山大観 (1868-1958) 他	1巻 (上・下巻の両方)	絵 紙本着色	昭和14年 (1939)	宮内庁三の丸尚蔵館		
11	天の岩戸 曙光	絹谷幸二 (1943-)	1面	カンヴァス・顔料	平成24年 (2012)	個人		
10	天窟神楽図	富岡鉄斎 (1836-1924)	1幅	絹本着色	明治年間 (19-20世紀)	戸隠神社		
9	天の岩戸 戸開き	河鍋曉斎 (1831-1889)	双幅	絹本着色	明治年間 (19世紀)	及川茂氏		
8	岩戸神楽図	中林竹溪 (1816-1867)	1幅	絹本着色	江戸時代 (19世紀)	名古屋博物館		
7	岩戸神楽の起顕	3代歌川豊国 (1786-1864)	3枚続	大判錦絵	江戸時代 (19世紀)	個人		



44 太安萬侶墓誌

第II章

古事記の 1300年

『古事記』の冒頭にある「序」によると、奈良時代の和銅5年（712）正月28日に献上されてから、平成24年（2012）で1300年。この節目をはさんで、関連書籍や雑誌の出版、催しが相次ぐなど、全国的に「古事記ブーム」がまき起りました。

『古事記』は、この1300年余りの間にさまざまな評価を受けてきた書物です。平安時代には、『古事記』は正史とされる『日本書紀』ほどには重んじられていなかったようです。その後、『古事記』は一部の人の興味の対象という位置づけで時は移り、ようやくその価値が認められるのは、江戸時代後半の国学者・本居宣長の研究によってでした。近代に入り、第二次世界大戦中になされた読まれ方の反動で、戦後はあまり顧みられなくなってしまっていた『古事記』ですが、昨今の「古事記ブーム」では、『古事記』が本来もつ豊かさにスポットが当てられ、多くの人の関心を集めることになりました。

第II章では、まず、『古事記』にどんなことが書かれているのかなど基本的な情報をみたと、この1300年の間、時代ごとに『古事記』がどのように受け入れられてきたのかを振り返ってみることにしましょう。

番号	名称	作者（生年—没年）／出土地	数量	形式／材質	時代	所蔵	前 期	展 示 期 間	後 期
27	八重の潮路	中村不折（1866—1943）	1面	カンヴァス・油彩	明治39年（1906）	府中市美術館			
28	童女の姿となりて	石井林響（1884—1930）	1幅	絹本着色	明治39年（1906）	東京都現代美術館			
29	直弧文鏡（複製品）	奈良県新山古墳出土	1点	鏡／合成樹脂（原品 青銅）	原品は古墳時代前期（4世紀）	奈良県立橿原考古学研究所附属 博物館（原品は宮内庁）			
30	黒作横刀（雛形）		1点	鉄・銅・木・漆	明治39年（1906）以前 原品は奈良時代（8世紀）	東京藝術大学（原品は宮内 庁）			
31	小碓尊	前田青邨（1885—1977）	1幅	絹本着色	明治36年（1903）頃	岐阜県美術館			
32	小碓皇子（下絵）	安田靉彦（1884—1978）	1面	紙・墨・鉛筆、淡彩	制作年不詳	川崎市市民ミュージアム			
33	倭比売命（下絵）	安田靉彦（1884—1978）	1幅	紙本墨画淡彩	制作年不詳	川崎市市民ミュージアム			
34	草薙の剣（大下絵）	安田靉彦（1884—1978）	1面	紙・墨・鉛筆、色鉛筆	昭和48年（1973）	川崎市市民ミュージアム			
35	酒折宮（大下絵）	安田靉彦（1884—1978）	1面	紙・墨・鉛筆、淡彩	昭和42年（1967）	川崎市市民ミュージアム			
36	居醒泉（下絵）	安田靉彦（1884—1978）	1面	紙・鉛筆、墨、淡彩	昭和3年（1928）	川崎市市民ミュージアム			
37	伊邪那岐命と伊邪那美命	河鍋晩斎（1831—1889）	1幅	絹本着色	明治3年（1870）以前	河鍋晩斎記念美術館			
38	黄泉比良坂	青木繁（1882—1911）	1面	紙・色鉛筆、バステル、 水彩	明治36年（1903）	東京藝術大学			
39	木華開耶媛	堂本印象（1891—1975）	2曲1隻	絹本着色	昭和4年（1929）	京都府立堂本印象美術館			
40	木花開耶姫	案本一洋（1893—1952）	1面	絹本着色	大正後期頃（20世紀）	京都市立下鴨小学校			
41	橘媛投身之図	大浦玉陽（生没年不詳）	1幅	絹本着色	明治後期（20世紀）頃	走水神社			
42	吾妻はや（中下絵）	安田靉彦（1884—1978）	1面	紙・墨・鉛筆、淡彩	昭和46年（1971）	川崎市市民ミュージアム			

65	映像展示 『古事記』と世界の神話 ―その類似性と多様性―	福田泰崇(1977)	1本		平成26年(2014)		
64	『ぼおるべん古事記』(原画)	こうの史代(1968)	18枚		平成23年(2011)～平成24年(2012)	平凡社	
63	『古事記全註釈』	倉野憲司(1902-1991)	7冊		昭和48年(1973)～昭和55年(1980)	奈良県立万葉文化館	
62	『古事記の世界』	西郷信綱(1916-2008)	1冊		昭和42年(1967)	奈良県立図書館	
61	『世界少年少女文学全集29 古事記物語他』	林房雄(1903-1975)他	1冊		昭和30年(1955)	奈良県立図書館	
60	『日本古典の研究』	津田左右吉(1873-1961)	2冊		昭和23年(1948)	奈良県立図書館	
59	『古事記物語』(複製品)	鈴木三重吉(1882-1936)	2冊		大正9年(1920)	奈良県立図書館	
58	『日本歴史画帳』	安達吟光(生没年不詳)	1帖	紙本多色摺	明治28年(1895)	奈良県立万葉文化館	
57	『Japanese Fairy Tale Series』	B・H・チェンバレン(1850-1935)他	20冊	紙本多色摺	明治18年(1885)～明治25年(1892)	奈良県立万葉文化館	
56	『皇国開闢由来記』	平野元良(1790-1867)	4冊	紙本墨摺	万延元年(1860)	奈良県立万葉文化館	
55	『前賢故実』	菊池容斎(1788-1878)	20冊	紙本墨摺	天保7年(1836)～明治元年(1868)	奈良県立万葉文化館	
54	『訂正古訓古事記』	本居宣長校訂 長瀬真幸訂正	3冊	紙本墨摺	享和3年(1803)跋	奈良県立図書館	
53	『古事記伝』	本居宣長(1730-1801)	45冊	紙本墨摺	江戸時代(18世紀)	奈良県立万葉文化館	
52	◎ 『古事記伝』再稿本・巻一、巻二、巻十七、巻十八	本居宣長(1730-1801)	4冊(44冊の内)	和紙・墨	江戸時代(18世紀)	本居宣長記念館	
51	◎ 『古事記伝』草稿本・巻十七、巻十八	本居宣長(1730-1801)	1冊(22冊の内)	和紙・墨	宝暦14(明和元)年(1764)～寛政10年(1798)	本居宣長記念館	
50	◎ 『古事記』寛永版本・中巻(本居宣長手沢本)	太安万侶(?-723)	1冊(3冊の内)	紙本墨摺	江戸時代 寛永21年(1644)	本居宣長記念館	
49	◎ 本居宣長七十二歳像	井特(1755?-1815-?)	1幅	絹本着色	江戸時代 享和元年(1801)	本居宣長記念館	
48	◎ 本居宣長四十四歳自画自賛像	本居宣長(1730-1801)	1幅	紙本着色	江戸時代 安永2年(1773)	本居宣長記念館	
47	猪熊本『古事記』(複製品)	太安万侶(?-723)	3冊	和紙	原品は江戸時代か	奈良県立万葉文化館(原品は個人)	
46	真福寺本『古事記』(複製品)	太安万侶(?-723) 賢掬写	3冊	和紙	原品は南北朝時代 [上・中巻] 応安4年(1371) [下巻] 応安5年(1372)	奈良県立万葉文化館(原品は大須観音宝生院)	
45	古事記	安田鞞彦(1884-1978)	1幅	紙本淡彩	昭和21年(1946)	愛媛県美術館	
44	◎ 太安萬侶墓誌	奈良県太安萬侶墓出土	1点	墓誌/銅板	養老7年(723)	文化庁(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館保管)	



70 瑪瑙製勾玉、水晶製勾玉、翡翠製勾玉

第三章

古事記に 登場する アイテムたち

『古事記』には、魅力的な神々や人物だけでなく、さまざまなアイテムが登場します。例えば、天孫降臨のときに、天邇岐志国邇岐志天津日高日子番能邇々芸命が天照大御神から授けられた「勾玉」「鏡」「劍」をはじめ、弓矢、盾などの武器や、櫛、腕輪、首飾りなどのアクセサリー、杯、箸などの食器類、また、琴は、何度も重要な場面に出てくる楽器です。

第三章では、これらのアイテムの中から、『古事記』の物語世界に思いを馳せることができる考古資料を集めました。それらを見ながら、『古事記』で描かれた時代の文化や暮らしについて、より具体的に想像してみましよう。

番号	名称	作者(生年-没年) / 出土地	数量	形式/材質	時代	所蔵	展示期間	
							前期	後期
82	銀象嵌銘鉄刀 (複製品・原品●)	熊本県江田船山古墳出土	1点	刀/原品鉄・銀	原品は古墳時代中期、後期初頭(5~6世紀)	国立歴史民俗博物館(原品は東京国立博物館)		
81	■ 弾琴男子椅座像埴輪	神奈川県蓼原古墳出土	1点	埴輪/粘土・砂	古墳時代後期(6世紀)	横須賀市自然・人文博物館		
80	和琴 (複製品)	奈良県布留遺跡出土	1点	合成樹脂/原品ヒノキ	原品は古墳時代後期(6世紀)	埋蔵文化財天理教調査団		
79	大型家形埴輪	奈良県宮山古墳(室大墓)出土	1点	埴輪/粘土・砂	古墳時代中期(5世紀)	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館		
78	隼人の楯 (復元品)	平城宮跡出土	1点	楯/ヒノキ板・馬鬃・顔料	原品は奈良時代(8世紀)	奈良文化財研究所		
77	釣針	奈良県唐古・鍵遺跡出土	2点	釣針/骨角	弥生時代中・後期(紀元前1世紀・1世紀)	田原本町教育委員会		
76	頭椎大刀	出土地不詳	1点	裝飾大刀/鉄・金銅	古墳時代後期(6世紀)	神戸市立博物館		
75	鶏形埴輪	奈良県四条古墳出土	1点	埴輪/粘土・砂	古墳時代中期(5世紀)	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館		
74	卜骨	奈良県唐古・鍵遺跡出土	1点	鹿肩甲骨	弥生時代中期(紀元前2世紀)	田原本町教育委員会		
73	□ 靱形埴輪	静岡県堂山古墳出土	1点	埴輪/粘土・砂	古墳時代中期(5世紀)	磐田市教育委員会		
72	衝角付膏・短甲	奈良県新沢千塚115号墳出土	各1点	甲冑/鉄	古墳時代中期(5世紀)	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館		
71	靱・矢 (復元品)	押元信幸/奈良県鴨都波1号墳出土	靱1点・矢12点	靱・矢/植物性編み物・黒漆・鉄・竹・羽	平成14年(2002)原品は古墳時代前期(4世紀)	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館		
70	瑪瑙製勾玉、水晶製勾玉、翡翠製勾玉	奈良県新沢千塚500号墳出土	9点	勾玉/瑪瑙・水晶・翡翠	古墳時代前期(4世紀)	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館		
69	桃核	奈良県纏向遺跡出土	一括	桃核	弥生時代終末~古墳時代前期初頭(3世紀)	桜井市教育委員会		
68	豎櫛	大阪府巨摩遺跡出土	1点	豎櫛/カヤ	弥生時代後期(2世紀)	大阪府文化財センター(大阪府立弥生文化博物館展示)		
67	豎櫛	大阪府東奈良遺跡出土	1点	豎櫛/材質未鑑定	弥生時代後期(2世紀)	茨木市教育委員会		
66	銅矛	出土地不詳	1点	矛/青銅	弥生時代中期(1世紀)	天理大学附属天理参考館		

99	『古事記中巻』	太安万侶(？―723) 中臣延春写	1冊	紙本墨書	慶長8年(1603)	春日大社		
98	大東家本 『皇年代記』		1通	紙本墨書	平安時代(12世紀)	春日大社		
97	● 黒漆平文鏡台(本宮御料古神宝類の内)		1基	木造漆塗平塵地平文	鎌倉時代(13世紀)	春日大社		
96	○ 禽獸葡萄鏡	春日大社伝世品	1点	鏡/白銅	中国唐時代(8世紀)	春日大社		
95	■ 鹿島立神影図	二条英印(生没年不詳)	1幅	絹本着色	南北朝時代 永徳3年(1333)	春日大社		
94	○ 禁足地出土品(銅鏃・環頭大刀柄頭・金銅垂飾品・金銅空玉・金銅鑲)	石上神宮禁足地出土	8点	銅鏃・環頭大刀柄頭・金銅垂飾品・金銅空玉・金銅鑲/青銅・金銅	古墳時代前期・後期(4・6世紀)	石上神宮		
93	○ 禁足地出土品(琴柱形石製品・弧状管玉・角形管玉・硬玉璽玉)	石上神宮禁足地出土	4点	琴柱形石製品・弧状管玉・角形管玉・硬玉璽玉/碧玉・硬玉	古墳時代前期(4世紀)	石上神宮		
92	○ 禁足地出土品(碧玉管玉)	石上神宮禁足地出土	一連	管玉/碧玉	古墳時代前期(4世紀)	石上神宮		
91	○ 禁足地出土品(碧玉管玉)	石上神宮禁足地出土	19組(33点)	管玉/碧玉	古墳時代前期(4世紀)	石上神宮		
90	○ 禁足地出土品(硬玉勾玉)	石上神宮禁足地出土	11点	勾玉/硬玉	古墳時代前期(4世紀)	石上神宮		
89	七支刀(復元品)	七支刀復元実験プロジェクトチーム	1点	剣/鉄・金	平成17年(2005)	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館		
88	七支刀(複製品)		1点	合成樹脂	昭和43年(1968)	石上神宮	10月18日～24日、11月26日～12月14日	
87	● 七支刀	石上神宮伝世品	1点	剣/鉄・金	古墳時代前期(4世紀)	石上神宮	10月25日～11月24日	
86	内行花文鏡	伝奈良県ホケノ山古墳出土	1点	鏡/青銅	古墳時代中期～後期(5～6世紀)	大神神社		
85	子持勾玉	大神神社禁足地出土	3点	勾玉/滑石	古墳時代中期～後期(5～6世紀)	大神神社		
84	□ 大国主大神木像		1軀	木造彩色	平安時代後期	大神神社		



87 七支刀

第IV章 身近に 今も息づく 古事記

奈良県内には多くの古社があります。第IV章の前半では、『古事記』の物語に登場する大神神社、石上神宮、そして、国譲りを成功させた武甕槌命(『古事記』では建御雷神)を祀る春日大社について、それぞれの神社に伝わる貴重な神宝や文献資料を展示します。後半では、奈良発祥である能に用いられる面の名品や、全国各地に残る神楽の中から、鳥根県の諸神楽と宮崎県の高千穂神楽についてご紹介しましょう。ここでは、神宝や芸能というかたちで現代に至るまで受け継がれてきた、人々の神々への思いを見つめ直してみたいと思います。

83 金錯銘鉄剣(複製品・原品)

埼玉県稲荷山古墳出土

1点

剣/原品鉄・金

原品は古墳時代中期(5世紀)

埼玉県立さきたま史跡の博物館

番号	名称	作者（生年―没年）／出土地	数量	形式／材質	時代	所蔵	展示期間
100	『古事記簡書』	中臣祐字 講談 中臣祐用 筆録	1冊	紙本墨書	元禄13年（1700）	春日大社	
101	『春日神社記』	今西祐舎・富田延英 撰述	1冊	紙本墨書	寛文3年（1663）	春日大社	
102	摩多羅神面（白色尉）		1面	木	安土桃山時代	談山神社	
103	翁（白色尉）		1面	木	室町時代	狭川両西敬神講	
104	父尉		1面	木	室町時代	狭川両西敬神講	
105	□ 延命冠者		1面	木	室町時代	長尾神社	
106	悪尉		1面	木	安土桃山時代	談山神社	
107	小面		1面	木	江戸時代（17〜18世紀）	奈良県立美術館	
108	佐陀神能スサノヲ面		1面	木	平成	島根県立古代出雲歴史博物館	
109	佐陀神能ヤマタノオロチ面		1面	木	平成	島根県立古代出雲歴史博物館	
110	奥飯石神職神楽ヤマタノオロチ面		1面	木	平成	島根県立古代出雲歴史博物館	
111	大原神職神楽ヤマタノオロチ面		1面	木	平成	島根県立古代出雲歴史博物館	
112	石見神楽提灯蛇胴		1面	和紙	平成	島根県立古代出雲歴史博物館	
113	高千穂神楽 猿田彦面	甲斐愛光	1面	木	平成	甲斐愛光氏	
114	高千穂神楽 鈿女面	甲斐愛光	1面	木	平成	甲斐愛光氏	
115	高千穂神楽 手力男面	甲斐愛光	1面	木	平成	甲斐愛光氏	
116	高千穂神楽 戸取り面	甲斐愛光	1面	木	平成	甲斐愛光氏	
117	高千穂神楽 手力男衣装一式	甲斐愛光	1式	麻	平成	甲斐愛光氏	

第V章 未来へ 語り継ぐ 古事記

これまでの展示を通じ、『古事記』の世界観や時代ごとに与えてきた影響を紹介してきました。今回の展示会では、今を生きる瑞々しい感性で、『古事記』を読み直し、語り継ぐことにも挑戦します。現代アートの最前線で活躍する3アーティストは、『古事記』と出会い、どんなインスピレーションを得たのでしょうか。展示は、すべて新作となります。

番号	タイトル	作家名	前 期	後 期
118	現代アート1	exonemo		
119	現代アート2	トーチカ		
120	現代アート3	山口 藍		